

令和5年度学校自己評価システムシート (県立熊谷農業高等学校)

目指す学校像	命を育み知を磨く学舎づくり (農業各分野の担い手・技術者と、地域を担う人材の育成)
--------	---

重点目標	1 授業や教育活動をとおして学習意欲を向上させ、基礎学力の定着と学力の向上を図る。 2 社会人として必要な基本的内容を身に付けさせ、評価される人材を育成する。 3 計画的に効果的な指導を行い、生徒の進路希望を実現させる。 4 地域と連携した活動を行い、地域から信頼される学校作りを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	8名
	事務局(教職員)	10名

学校自己評価							
年度目標			年度評価(1月23日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】 本校には、幅広い学力層の生徒が入学している。また、中学校まで目立たない存在であった生徒も多数入学している。成績優良者がいる一方、欠点を取ってしまう者も多く、学期ごとの追試験を実施するが、欠点が解消できない生徒も見られる。</p> <p>【課題】 個々の生徒の状況や実情を理解した上で、基礎学力の定着を図り、成績優秀な生徒には更なる学力向上を図る必要がある。そのためには、ICTを活用した教授法を含めた授業展開を工夫し授業の質の向上が一層必要となる。 また、学校行事等を通して、生徒に多くの経験と活躍の場を与えることにより主体的な取組を進めて学力の向上につなげていく。</p>	<p>○各教科及びHRで個々の生徒の状況把握</p> <p>○生徒の興味関心を高める授業の実施</p> <p>○生徒の主体的な運営</p>	<p>①定期考査等で生徒の理解度・到達度を把握し、学力の身につけている生徒は更に学力を伸ばす指導を行う</p> <p>②基礎学力の身につけていない生徒は学習サポーターを活用した指導を行う</p> <p>①ICTを利用した教育の職員研修を進め、生徒に興味関心を持たせる授業を各教員が実践する</p> <p>②学習の取組や習得が芳しくない生徒には、日常的に欠点をとらせない細かな指導を行う</p> <p>①学校農業クラブ活動や学校家庭クラブ活動を計画的に行い、役員生徒が中心となって取り組ませる</p> <p>②生徒会等に関する行事を生徒が中心となって運営し、充実して実施する</p>	<p>①成績優良者数の増減</p> <p>②基礎学力の定着度を測定するテストにより学力が2段階以上向上した生徒の割合</p> <p>①授業アンケート満足度</p> <p>②欠点取得者数の増減</p> <p>①学校農業クラブ活動、学校家庭クラブ活動が、役員生徒が中心に取り組めたか</p> <p>②生徒会行事の運営を生徒が中心となって行えたか</p>	<p>生徒個々の理解度等の状況把握に努めている</p> <p>①成績優良者(昨年度との比較) 0.1ポイント増(1学期) 1.0ポイント減(2学期)</p> <p>②学習サポーターを活用し数学と英語の補習を行っている 数学では受講者全員が2段階以上向上した</p> <p>生徒に興味関心を持たせる効果的な授業に取り組んでいる</p> <p>①授業満足度92%高い水準を維持</p> <p>②欠点取得者(昨年度との比較) 3.8ポイント減(1学期) 1.3ポイント増(2学期)</p> <p>生徒の主体的な運営が定着してきた。</p> <p>①農業クラブ・家庭クラブ共に生徒中心の取組については、今後さらなる工夫が必要である</p> <p>②学校説明会での学科説明・施設案内を生徒が中心に行ったが、委員会活動ではまだまだ教員主導の活動になっている</p>	B	<p>・成績優良者が1学期3年並みであったが2学期は減少した。その理由を検証し、教科指導の改善に繋げる</p> <p>・成績優良者を2学期も維持し、さらに増加できるように教科指導を組織的により計画的に行う</p> <p>・生徒の授業への興味関心を高め、より良い授業を構築するため、ICTを利用した教育をさらに推進する</p> <p>・欠点解消率向上のため、各教科の指方法について再検討する</p> <p>・アフターコロナでの学校行事正常化を受け、さらに生徒中心の学校行事を再編・実施する</p>
2	<p>【現状】 継続的な指導により、頭髪・服装の乱れ、遅刻者は減少傾向が継続している。しかし、指導されないといけない生徒も見受けられる。また社会人に求められる、挨拶、服装、言葉遣い、時間を守る、清掃の取組、率先した行動、他者への配慮等が十分身につけていない者もいる。</p> <p>【課題】 社会を形成する一員として、自己管理能力や他者を思いやる気持ちを身に付けさせていく指導の継続が必要である。</p>	<p>○時間厳守の徹底と自己管理能力の向上</p> <p>○心の教育の充実</p>	<p>①授業や行事等を定刻で開始し、チャイム着席を励行する。また、立哨指導と「遅刻入室カード」により遅刻の多い者を把握し、個別に指導する</p> <p>②携帯電話使用のマナー・モラルを身に付けさせる指導を行う</p> <p>①動・植物を扱う本校の特長を活かし、学校全体で思いやりを育む教育を推進する</p> <p>②一人一台タブレット導入に対応したネットトラブル防止教室を開催し、SNS等についてのマナー教育を行う</p>	<p>①遅刻者の増減</p> <p>②携帯電話使用マナーアンケート結果</p> <p>①学校評価アンケート結果</p> <p>②生徒指導件数</p>	<p>生徒の自己管理能力の定着をより一層促進する必要がある。</p> <p>①遅刻者数3年年度比1学期10ポイント増、2学期40ポイント減である</p> <p>しかし、2学期に1学期より遅刻数が増加する傾向にある</p> <p>②90%の生徒がマナーを守って使用していると回答</p> <p>思いやりを育む教育を専門教科を中心に実践し、心の教育の充実を推進した</p> <p>①専門科目における満足度97%。学校生活への満足度95%であった</p> <p>②計画的にネットトラブル防止を含めた非行防止教室を実施した</p> <p>しかし、生徒指導件数は昨年度と変化はなかった</p>	A	<p>・引き続き生徒の自己管理能力向上のため遅刻指導の継続と、2学期の遅刻者数の減少に向けた、指導方法の構築に努める</p> <p>・今後のタブレット等を用いたICT教育を見据えて、SNS等についてのマナー教育をより計画的に実施する必要がある</p> <p>・農業高校ならではの思いやり教育を推進し、生徒指導件数ゼロを目指す</p>
3	<p>【現状】 卒業後の進路について、入学段階から明確な目標を持っている者もいるが、多くは進路目標を持たず、また自己理解が不十分な生徒もいる。</p> <p>【課題】 進路行事の時期や内容をより効果が上がるよう計画的に設定し、早期から生徒・保護者が自ら積極的に進路情報の取集ができるよう指導を進め、さらに職員間での生徒の情報を共有して組織的に指導していく必要がある。</p>	<p>○進路希望の実現</p> <p>○学習内容に関する進路の増加</p>	<p>①生徒に意識付けを行い、受験先の情報収集と合格のための準備を行わせる</p> <p>②計画的に効果的な進路行事を設定し、指導を行う</p> <p>③就職支援アドバイザーを含め学校全体で3年生の面接指導、論文指導、補講等を行い、合格に向けた適切なアドバイスをを行う</p> <p>①農業関係や外部連携事業等に積極的に生徒を参加させる等、生徒の興味を高める授業・取組を行う</p> <p>②1年生に校外農業実習を実施、生徒の農業関連分野への学習意欲向上に繋げる</p>	<p>①受験する先について、生徒が十分情報収集したか</p> <p>②進路希望が実現したか</p> <p>③組織的な進路指導が行えたか</p> <p>①農業・関連産業等、学習内容に関する進路が増えたか</p> <p>②生徒、実習先アンケート結果</p>	<p>進路希望の実現が概ね達成できた</p> <p>①8学年・進路指導部を中心に指導、面接練習も受験前に計画的に実施</p> <p>②進路希望決定率97%(12月末日現在)と高い決定率であった</p> <p>③進路指導部、学年を中心に組織的な指導を行った</p> <p>半数以上は農業や学習した内容に関連する進路先である</p> <p>①農学系の大学への進学が多く、農業法人、農業団体を進路先とする生徒も例年並であった。特に国立大学への進学者が複数名出た</p> <p>②アンケート結果 満足度：生徒95%、保護者93% 実習が有意義なものであったと回答した受け入れ農家96%</p>	A	<p>・農学・家政系の大学、短大、専門学校への進学をより勧めるため、オープンキャンパスへの早い段階からの参加・論文指導や各進路行事の達成を図る</p> <p>・就職情報の的確な活用について計画的に行い、早期に進路意識を定着させ、時代の変化に合わせた就職支援をより深化させる</p> <p>・今後とも1年生での校外実習を継続し、専門分野への進路意識の向上に繋げる</p>
4	<p>【現状】 本校は、施設・設備を活かした特色ある教育活動を実施している。県事業等の指定による外部専門家との連携や学校独自で地域の異校種との連携・交流も行っている。</p> <p>【課題】 本校の特徴ある教育活動が外部に対して十分発信されていないことが課題である。地域や中学校に本校が一層理解されるよう、SNS等も活用した広報活動を進めていく必要がある。</p>	<p>○学校情報の積極的な提供</p> <p>○目的意識の高い志願者の確保</p>	<p>①HPを見やすく構成を見直すとともに、本校の基本情報を定期的に、話題の内容をその都度掲載し、新しい情報を提供・発信する</p> <p>②本校の活動や話題の内容を新聞や農業団体の情報誌に提供し学校をPRする</p> <p>①中学校の説明会・学校訪問、高校見学、体験入学等の機会に、積極的に本校の良さをPRする</p> <p>②本校生徒(卒業生)による学校訪問を実施、中学校へ積極的な働きかけを行う</p>	<p>①HPに本校の最新の基本情報を掲載し話題をその都度発信できたか</p> <p>②新聞・情報誌への掲載数</p> <p>①本校の中学生向け行事に参加した中学生が志願してきたか</p> <p>②本校への志願者が増えたか</p>	<p>HPの更新や新聞などのメディアを活用し、本校の活躍を内外にアピールすることができた</p> <p>①HPには学校行事・授業・部活動等積極的に記事をアップ(新着情報を今年度108件アップ)</p> <p>②新聞へ21回(読売、埼玉、毎日、日本農業新聞等)掲載</p> <p>テレビ報道1回(テレビ朝日)</p> <p>今後も目的意識の高い志願者の確保が必要である</p> <p>①事前に本校での行事に参加した志願者は、93%である</p> <p>②募集人数に対する志願倍率は0.99倍である</p>	A	<p>・適期における情報提供を行うことで、新聞等を活用した広報活動が定着してきている</p> <p>・今後より効果的な話題を提供するため、校内外行事への積極的な参加を推進する</p> <p>・今年度の総括を元に、次年度の生徒募集活動へ繋げる</p>

学校関係者評価	
実施日	令和6年1月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・学校評価アンケートを今年度から、ネット経由での回答としたところ、回答率が極端に下がったクラスがあった、回答方法について、今後工夫が必要である</p> <p>・タブレットをうまく活用している先生が多い、今後は事前配布プリントなどをさらに工夫し、授業についていけない生徒への予習・復習へのフォローができるとなおいいと感じた</p> <p>・畜産の授業では、特に乳牛の扱いについては、大きな事故につながるがあるので、充分注意してほしい</p> <p>・卒業生が進学先で、授業についていけないケースがある、特に大学進学者への進路決定後の補習等をする必要があるのではないかと感じる</p> <p>・タブレット導入にあたり、今後もネットトラブル防止のための指導が必要である</p> <p>・生徒の意見や学校評価アンケートの結果を受けて改善した内容を生徒・保護者に示して対応を進めていくべきである</p> <p>・多方面で活躍している卒業生の講演会等を定期的に計画し、進路意識の向上に繋げてほしい</p> <p>・校外農業実習は今後も継続的に続け、生徒の農業分野への進路意識への醸成に繋げてほしい</p> <p>・学校案内の編集を工夫し、一見して興味を引く、例えば文字が見やすく、生徒の様子が一見してわかる表紙等の工夫が必要であろう</p> <p>・メディアへのアピールは大いに効果があるので、今後も進めてほしい</p>	